2、おもてなしの心

ところが、9月4日（金）、いつものように、大山崎町社会福祉協議会経営の「なごみの郷」のデイサービスの日。午前10時頃から嘔吐の繰り返し、急いで、主治医の、「すずき内科クリニック」に搬送。さらに、京都桂病院に救急・搬送されて神経内科に即入した。

あとになって考えると、このときの速いリレーが、今回の生還の大きな要因だった。もしも、あのとき、グズグズしていたら手遅れになっていたに違いない。「なごみの郷」の職員のみなさんの適切な判断と応急措置には、ただただ感謝である。

9月10日（木）の午後。

主治医の説明では、病名は、脳梗塞（小脳、脳幹）。

わたしは片道、約1時間、病院までは，阪急電車と、桂駅前からのシャトルバスを乗り継いで日参、ベッド脇に張り付いて暮らした。病室は、カーテンでしきった4人部屋で高齢の女性ばかり。

「家族の手でパジャマに着替えさせてもよろしいか？」。

入院時の服装のママでベッドに放置して何日経ったことだろうか。

とうとう辛抱できなくなって訴えたところ、あわててパジャマに着替えさせてくれた。

入院期間中、

「何か文句あるの」。

とでも言いたげに、一度だけ病室を訪れた婦長さんの言では、

「この病院でのパジャマの着替えは8日に1回」、

とのご託宣。

その明くる日のことだったろうか。

「この病院では8日間もパジャマを替えないのが普通なんか？」、

と聞いたところ、若い看護師さんは、

「普通ではありません」。

と、キッパリ答えた。あとで聞くと、院内トラブル頻発とのことだったが、これでは無理もない。

熱発までは12日ほどあった。

この間に、洗髪を見たのは1回だけ。20日間の入院期間中に、シャワーを浴びることはついになかった。